

1 単元名 跳び箱を使った運動遊び

2 運動の特性 (機能的特性)

跳び箱を使った運動遊びは、いろいろな高さや向きの跳び箱を組み合わせて、跳び乗ったり下りたりすることや手を着いてまたぎ乗ったり下りたりすることが楽しい運動遊びである。

3 児童の実態 (学習の準備状況)

～省略～

4 実態の考察

(1) 運動の楽しさの体験状況について

本学級の児童は、昨年度の新型コロナウイルス感染拡大の影響により、跳び箱を使った運動遊びを経験できていない。しかし、幼稚園や保育園、習い事などで、24名(80%)の児童が跳び箱を使って運動したり、遊んだりする経験をしている。

跳び箱を使った運動遊びに対して、25名(83%)の児童が「好き」「どちらかという好き」と答えている。「跳ぶことが気持ちよくて、楽しい」「いろいろな技があって楽しい」と、持ち技が増えることや浮遊感を味わえることに喜びを感じている。一方、「怪我しそうだから」「跳ぶのが苦手だから」という理由で、「嫌い」「どちらかという嫌い」と答えた児童は、5名(17%)である。

また、試しの跳び箱を使った運動遊びの時間が「楽しかった」「どちらかという楽しかった」と答えた児童は、28名(93%)である。理由として、「跳ぶのが楽しかったから」や「いろいろな技を知れたから」を挙げている。「楽しくなかった」と答えた2名(7%)の児童は、「手を痛めたから」「怖いと感じたから」を理由に挙げている。このことから、安心感や成就感を味わえるかどうかで、跳び箱を使った運動遊びを好きか嫌いか判断していると考えられる。

(2) 運動の楽しさを求める学び方の習得状況について

本学級の児童は、簡単な課題をもって学習することに徐々に慣れてきている。「今日頑張りたいことを決めて、学習することができますか。」という問いに対して、全員が「できる」と答えている。しかし、めあての内容は、大半の児童が抽象的であり、具体的なめあてをもつことができていない。障害物を使った運動遊びでは、「コースを工夫したい。」「みんなで力を合わせて勝ちたい。」など、「どのように」や「どこを」などの具体性に欠けている。

本学級の児童は、1年生から学年が上がる際にクラス替えをしている。喧嘩が少なく、4月から10月までを振り返っても2、3回程度である。「友達となかよく学習できますか。」という問いに対して、24名(80%)の児童が「誰とでもできる」答えている。「仲の良い人とならできる」と答えた児童は、5名(17%)であり、無回答は1名(3%)である。しかし、普段の学習の様子を見ていると、ペアやグループを組む際には、教師側から条件を提示しない限り、男子同士や女子同士になることが多い。さらに、決まった友達と組むことも多く、自発的な関わりは薄い。

「自分が上手くできないときにどうすればできるようになりますか。」という問いに対して、「練習する」と答えた児童が14名(47%)であり、「友達と練習する」と答えた児童は、8名(27%)である。さらに、「手の置く位置を工夫する」や「お手本を見て練習する」などと答えている児童もいることから、動きのポイントが明確になっている必要がある。また、自発的な関わりは薄いですが、友達との関わりの中で動きを習得することができると考えている児童もいるといえる。

遊び方の工夫をすることに関しては、27名(90%)の児童が、自分から遊びたいところを選んで、遊ぶ

ことができる」と答えている。しかし、これまでの学習の様子を見ていると、どの児童も「こうしたい」と思いはあったとしても、失敗を恐れて、周りの友達の様子を見てから遊び始める児童が多いように感じる。

(3) 運動の楽しさを味わうための技能の習得状況について

24名(80%)の児童が幼稚園や保育園、習い事でも跳び箱を使った運動をしたり、遊んだりした経験があるため、跳び箱に、踏み越しや支持で跳び上がることや跳び下りること、またぎ乗ったり下りたりすることなどは多くの児童ができていた。

しかし、踏み越し跳びで、両足踏み切りになってしまう児童や、支持で跳び上がりをする際には、片足で踏み切ってしまう児童など踏み切りに課題が見られる児童が多い。

また、踏み込みの力や腕の支持をする力が足りずに、跳び上がり切れず、お腹を跳び箱に着いて上がったり、膝で上がったりする児童の姿も見られた。

着地では、膝が伸び切っている児童や転んでしまう児童が多い。また、着地できたとしてもしっかりと止まらずに、そのまま歩くなど動きが流れてしまう児童も大半である。このことから、「安全な着地」というのを意識できていないといえる。

5 研究の視点と学習の手立て

(1) 市教研体育部の研究主題

生涯にわたって健康を保持増進し、運動に親しむ子どもを育てる体育学習

(2) 研究の視点と手立て

視点1 課題を見付け解決できる学習過程の工夫と指導内容の明確化

<手立て>

○ 3年生につながる基礎的な運動感覚を身に付ける学習過程の工夫

児童の多くは、保育園や幼稚園で跳び箱を使って運動をしたり、遊んだりする経験をしてきている。しかし、昨年度は跳び箱を使って遊ぶ経験をすることができなかった。さらに、来年度は3年生になるため、跳び箱を使った運動遊びから跳び箱運動の学習に移っていく。そのため、2年生のうちに十分に跳び箱を使った運動遊びに浸ることができるよう工夫していく必要がある。また、低学年のうちに、2年生なりの具体的な課題を見つけ、その課題を達成するために夢中になることの楽しさも味わうことができるようにしていきたい。

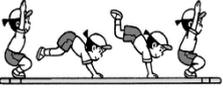
そこで、本単元では、跳び箱を使った運動遊びに十分に浸ることができるように、お話をういた学習にしていく。児童が忍者となり、修行のために、自分で様々な動き(遊び)を見つける時間をオリエンテーション後に設けることで遊びに没頭することができるのではないかと考える。さらに、その後の2時間を、見つけた修行(遊び)を共有し、様々な修行(遊び)を経験する時間にする。一つ一つの修行の場を全員で確認することで、児童が遊び方を理解し、楽しみながら技能を高めていくことができるだろう。後半の「にんにんしゅぎょう!とびぼこ村」では、前半の学習を生かして、より大きく、より丁寧に行う児童の姿が見られるのではないかと考える。

さらに、「忍者の修行」とすることで、忍者の世界観の中で、跳び箱運動で身に付けさせたい動きを自然と習得していくことをねらっていきたい。忍者の動きを意識することで、踏み切りや手の付き方、着地、跳び方にも、自然とこだわりが生まれ、「もっと音が鳴らないように静かに着地したい」などと、具体的な課題が見つけられるようになると思う。

本単元の学習で、遊びに没頭しながらも、踏み切り、着手、着地に目を向けさせることで、3年生以降の跳び箱運動の動きの高まりや広がり期待できる。

毎時間の導入時に、跳び箱運動につながる基礎的な運動感覚を養う時間『たんれんタイムの巻』を取り入れる。跳び箱運動につながる運動感覚づくりでは、手の支持感覚や片足、両足で踏み切る感覚、両足着地の感覚を身に付けられるようにしていく。

【つながる運動『たんれんタイムの巻』の指導内容の明確化】

	つながる運動	動き方	基礎的な運動感覚 (味わわせたい動き)
1 時 間 目 か ら 続 け て い く	忍法 ケンパー足じゃんけん	①「ケン、ケン」2人で向かい合って、足を閉じて2回跳ぶ。 ②「グー・チョキ・パー」どれか1つのポーズを足でとる。	助走や踏み切りのタイミング 3拍子のリズム
	忍法 じゃんけん3段跳び	①2人組でじゃんけんをして、勝った人が3歩進める。 ②早くゴールした人が勝ち。 ※慣れてきたら、1歩1歩を大きく踏み出して進む。	片足踏み切りの感覚 両足着地の感覚
	忍法あざらし歩き 	①両腕で体を支えて、手だけで移動する。	手の支持感覚
	忍法うさぎ跳び 	①前方に跳んで、両腕で体を支える。 ②足を前に着いた両手の位置までもってきて着地。(できれば両手よりも前に着地) ③両手は「バンザイ」で床から突き放して、両耳の脇へ。そのとき、体は起こす。	手の支持感覚 突き放しの感覚 上体を起こす感覚
後 か ら 増 や す	忍法 かえるの足うち 	①両手を肩幅に開いてマットに着き、着いた手の少し前を見る。 ②両足をそろえて、床を蹴り、腰を高く上げる。 ③両足を打ち、回数を数える。 ※慣れてきたら、回数を増やしていく。	手の支持感覚 逆さ感覚

視点2 さらに運動が楽しくなるかかわり合いの工夫（人、ものとのかかわり合い）

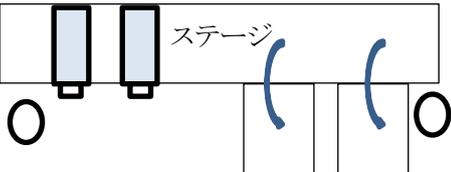
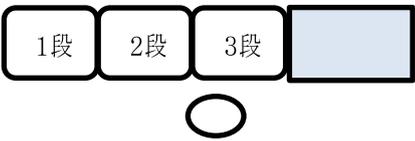
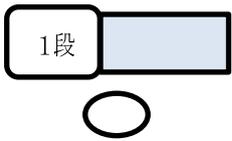
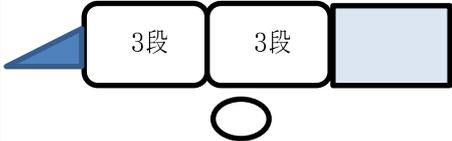
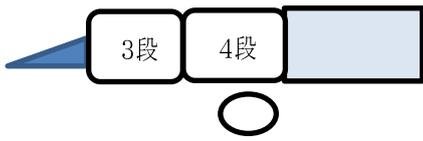
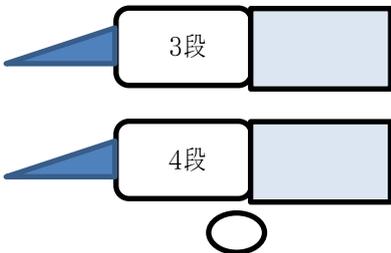
<手立て>

○ 多様な動きに対応する基礎的な運動感覚を身に付けることができる場の工夫

低学年の段階は、多様な動きの感覚を育てる時期である。その育成には「跳び箱運動につながる運動遊び」は、大きな役割を担っていると考える。様々な場で人やもの関わったり、課題を設定したりすることで児童が生き生きと楽しみながら、多様な動きの経験を育んでいけると考える。しかし、単に楽しいだけの場の設定や課題設定では、跳び箱運動につながる基礎的な運動感覚づくりには不十分であると考えられる。

そこで、各コーナーでは、運動の内容と期待される効果を明確にして、3年生以上の跳び箱運動につながる動きを身に付けさせていく。

【基礎的な運動感覚を身に付けることができる場】

	場の例	場の名前	運動の内容○	味わわせたい感覚●
ふみきり・ちやくちでござるの巻		ぴょーん！ ふわっと 道場	○支持で跳び乗り ○跳び下り	●手で支持する感覚 ●ふわっと着地の感覚
		とととっ！ ぴょーん 道場	○踏み越し跳び ○跳び下り	●片足踏み切りの感覚 ●ピタッと着地の感覚
		グッ！ ぴょーん！ 道場	○踏み越し跳び ○跳び下り ○跳び箱上で前回り ○横跳び越し	●ふわっと着地の感覚 ●回転する感覚 ●片足踏み切りの感覚
手でおすのでござるの巻		グズリッ！ グズリッ！ ぴょーん 道場	○またぎ乗り ○またぎ下り	●両足踏み切りの感覚 ●体を移動させる感覚 ●跳び箱を突き放す感覚 ●ピタッと着地の感覚
		ぴょーん！ ぴょーん！ 道場	○支持で跳び乗り ○またぎ越し ○跳び下り	●手で支持する感覚 ●両足踏み切りの感覚 ●跳び箱を突き放す感覚 ●ピタッと着地する感覚
修行とびばこ村		スペシャル 道場	○すべてできる	●すべての場の感覚が身に付く

※ 場の名前は児童が考えるため本時では名前が変更になるかもしれません。

○ ほめほめタイムの設定

本単元で児童が目指す学習の在り方として、「技ができるようになる学習」「勇気を出してチャレンジする学習」「みんなで楽しめる学習」と考えている児童が多い。そのため、友達とのつながりを大切にしたい学習を行っていきたい。人間関係が固定化されつつある児童が誰とでも仲良く学習していくことができるように、児童の人間関係を広げていく手立てを講じる必要がある。

そこで、本単元では、毎時間の途中で『ほめほめタイム』を設ける。『ほめほめタイム』では、友達のよい

ところを見つけ、褒め合う。褒め合うペアは、教師が意図的に組んだペアで行い、毎時間ごとに相手を替える。

低学年の児童が友達のことを褒める際には、「よかったよ」「すごいね」だけで終わってしまうことが多い。そのため、今回は掲示物を利用して、見合う視点を明確にするだけでなく、ほめほめタイムで、動きを見てもらう側が「〇〇が〇〇するように頑張ります。見てください。」と伝えられるようにする。友達の良い動きを褒める側（ミニ師匠）は、その言葉を受けて「〇〇（どこが）が〇〇〇（どうで）よかったよ。」「〇〇（どこが）が〇〇〇（どうで）すごいね」と伝えられるようにする。

そうすることで、児童同士の関わりも増え、児童が求めている「みんなで楽しめる」「勇気を出してチャレンジする」ことのできる学習になるのではないかと考える。

【教師が思う見合いのポイント】

児童が見合うポイントは、①ふみきり ②手の着き方 ③3秒着地 の3つにできるだけ絞っていきたい。そのためにも、教師が児童の動きを見るポイントとして以下のように捉え、声掛けしていく必要がある。児童には、忍者動きのポイントとして、忍者の言葉で掲示し、見合う際の一助としたい。

踏み越し跳び	<ul style="list-style-type: none"> ・助走は片足で踏み切れているか。 ・踏み切るときにドンッと力強い踏み切りになっているか
跳び下り	<ul style="list-style-type: none"> ・高いジャンプか。 ・遠いジャンプか。(ねらってジャンプか。) ・ピタッと3秒止まっているか。
支持で跳び乗り	<ul style="list-style-type: none"> ・両足でドンッと踏み切っているか。 ・手がバンッと両手でついていないか。 ・遠くに手を着くことができているか。 ・膝で乗れているか。→足の裏で乗れているか。
またぎ乗り	<ul style="list-style-type: none"> ・両足でドンッと踏み切っているか。 ・手がバンッと両手でついていないか。 ・遠くに手を着くことができているか。
またぎ下り	<ul style="list-style-type: none"> ・手で押して下りることができているか。 ・ピタッと3秒止まっているか。
またぎ越し	<ul style="list-style-type: none"> ・両足でドンッと踏み切っているか。 ・手がバンッと両手でついていないか。 ・ピタッと3秒止まっているか。

6 単元の目標

- (1) 跳び箱運動遊びの行い方を知るとともに、跳び箱を使って跳び乗りや跳び下りをするなどして遊ぶことができるようにする。(知識及び技能)
- (2) 器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。(思考力, 判断力, 表現力等)
- (3) 跳び箱を使った運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動したり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができるようにする。(学びに向かう力, 人間性等)

7 評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとめ(この評価規準)	次の運動遊びの行い方を知っているとともに、その動きを身に付けている。 ・跳び箱を使った運動遊びでは、跳び乗りや跳び下り、手を着いてのまたぎ乗りやまたぎ下りをしている。	器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫しているとともに、考えたことを友達に伝えている。	運動遊びに進んで取り組もうとし、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしようとしていたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりしている。
学習活動に即した評価規準	①跳び箱を使った運動遊びの行い方を知っている。 ②助走から片足や両足で踏み切って跳び箱に跳び乗ったり、またぎ乗ったりことができる。 ③ジャンプして跳び下りることができる。 ④またいだ姿勢で手を支点に体重を移動させて、またぎ下りたりすることができる。	①器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫している。 ②友達のよい動きを見つけ、考えたことを友達に伝えている。	①跳び箱を使った運動遊びに進んで取り組もうとしている。 ②順番やきまりを守り、誰とでも仲よくしようとしている。 ③準備や後片付けなどで、分担された役割を果たそうとしている。 ④場や用具の安全に気を付けている。

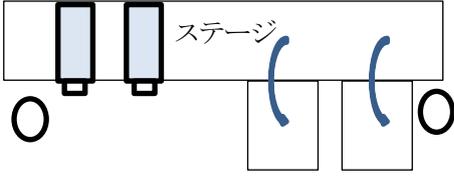
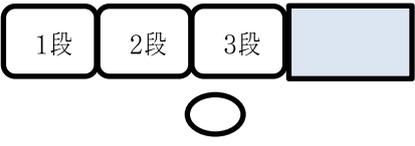
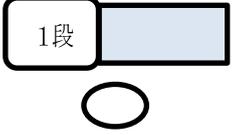
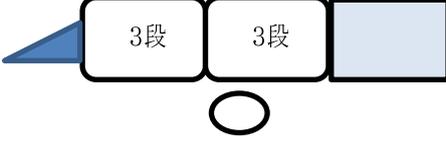
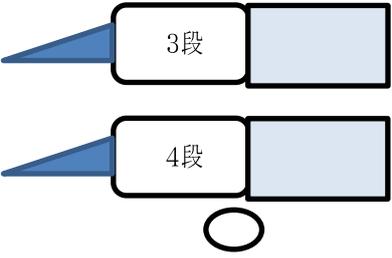
8 学習の道すじと評価計画

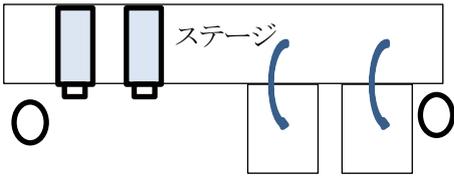
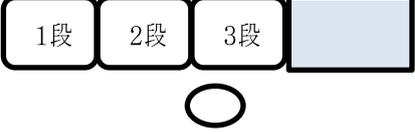
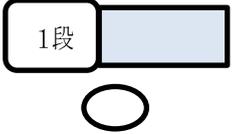
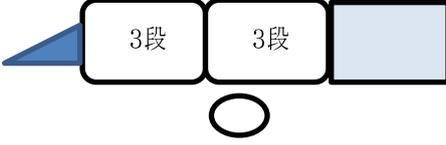
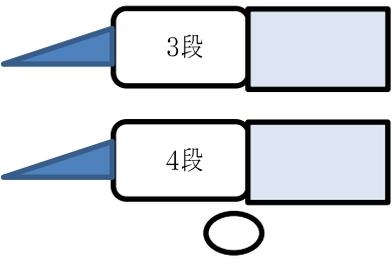
	1	2	3	4	5	6 (本時)	7	
学習のねらい	学習のすすめ方を知り、見通しをもつ	跳び箱を使った運動遊びを見つける	運動遊びの取り組み、動きのポイントを知り、場や資料の使い方を知る。		遊び方を工夫したり、友達と一緒に遊んだりして楽しむ。			
0 ↓ 45	オリエンテーション ・学習内容の確認 ・場や用具の準備や片付けの仕方 ・安全について(着手と着地) ・試しのたんれんタイム	場の準備・準備運動・跳び箱運動につながる運動『たんれんタイムの巻』						
		遊び方を工夫したり、友達と一緒に遊んだりして「にんにんしゅぎょう！とびぼこ村」を楽しもう。						
		『にんにんしゅぎょう！とびぼこ村！』で遊ぶの巻	ふみきり・ちやくちでござるの巻	手でおすのでござるの巻	『にんにんしゅぎょう！とびぼこ村』でしゅぎょうで動きをみがくのでござるの巻			
							まとめ	
知・技	① (観察・カード)	③ (観察)	② (観察)	④ (観察)				
思・判・表						① (観察・カード)	② (発言)	
態度	③ (観察)	① (常設 ICT)	④ (観察)		② (観察・カード)			

※ 各種の運動遊びの行い方を工夫するとは、低学年の各種の運動遊びをの楽しさに触れることができるようにするために、運動遊びをする場や練習の仕方などを自らの力に応じて工夫したり、選択したりすることを示したものである。教師から提案された楽しみ方や、自己や友達が考えた楽しみ方から、自己に合った楽しみ方を選択することもその一つである。 【小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 体育編 平成29年7月より】

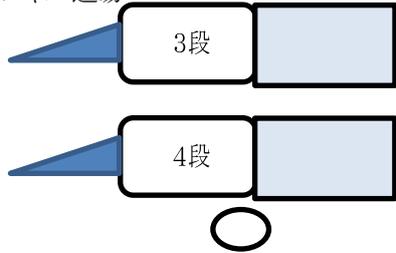
9 指導計画（本時 6 / 7時間）

	学習内容と活動	教師の指導・支援○・評価◇
はじめ	<p>オリエンテーションをする。</p> <p>○学習のねらいを理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大まかな単元の流れ、一時間の学習の流れを知る。 ・学習カードの使い方を知る。 ・準備や後片付け、用具の使い方について理解する。 <p>○学習の仕方やマナー、安全（着手・着地）について理解する。</p> <p>○跳び箱運動につながる運動『たんれんタイムの巻』のポイントや行い方を確認する。</p>	<p>○学習の見通しがもてるように、文部科学省から出ている映像や忍者の映像などを活用して視覚的に話す。</p> <p>○動きやマナーについても実際に見せながら指導する。</p> <p>○準備や片付けの役割が明確になるよう掲示を利用して確認し、その場で確認する。</p> <p>◇跳び箱を使った運動遊びの行い方を知っている。 【知識・技能①】</p> <p>◇準備や後片付けなどで、分担された役割を果たそうとしている。 【態度③】</p>
	<p>1 学習の場づくりをする。</p> <p>2 準備運動をする。</p> <p>○ストレッチ</p> <p>○跳び箱運動につながる運動『たんれんタイムの巻』を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・忍法ケンパー足じゃんけん ・忍法じゃんけん3段跳び ・忍法アザラシ歩き→忍法うさぎ跳び <p>3 めあての確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>遊び方を工夫したり、友達と一緒に遊んだりして「にんにんしゅぎょう！とびばこ村」を楽しもう。</p> </div>	<p>○安全に気を付けながら、協力して準備するように声をかける。</p> <p>○必要なものが揃い、場づくりができるように、掲示物を確認するよう声を掛ける。</p> <p>○学習で特に使う部位を意識させながら行う。</p> <p>○忍法ケンパー足じゃんけんでは、3拍子を意識させることで、助走からの踏み切りのタイミングを養うようにする。</p> <p>○忍法じゃんけん3段跳びでは、遠くに片足踏み切りや両足踏み切りを行うことや着地するときの3秒ピタッと止まることを意識させることで、踏み切りや着地の基礎感覚を養うようにする。</p> <p>○忍法アザラシ歩きでは、手のひらの上に肩がのるように意識させることで、手や腕で体を支える感覚を養うようにする。</p> <p>○忍法うさぎ跳びでは、前についた手に足を近づけるように跳ぶことを意識させることで、手で突き放す感覚や上体を起こす感覚を養うようにする。</p> <p>○掲示物を使って、今日のめあてを確認ように声を掛ける。</p>

	<p>4 約束の確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈約束〉</p> <p>①前の人が着地をして、手を上げて「いいよ」の合図をしたら、次の人が「いきます」の返事をして、スタート。</p> <p>②友達の動きを見る場所は、ケンステップの中から。</p> <p>③マットは横切らない。</p> <p>④マットを出たら左側を歩く。</p> <p>⑤手や足をついてから飛び下りる</p> </div>	<p>○安全に行うために、約束の確認をする。</p>
<p>なか か 1</p>	<p>5 『にんにんしゅぎょう！とびぼこ村』で活動する場へ移動して、いろいろな遊びを楽しむ。</p> <p>1 【場の例】（2時間目）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>ぴょーん！ふわっと道場</p>  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>とっどっどっ！ぴょーん道場</p>  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>グッ！ぴょーん！道場</p>  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>グズリッ！グズリッ！ぴょーん道場</p>  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ぴょーん！ぴょーん！道場</p>  </div>	<p>○様々な高さを組み合わせた飛び箱を用意することで、苦手な児童も取り組みやすくし、達成感を味わえるようにする。</p> <p>○動きのポイントや修行（遊び）の工夫を見つけたら、あとで発表してもらうことを伝え、活動の中で忍者の動きのコツを見つけられるようにする。</p> <p>○ほめほめタイムに向けて、場を回りながら、めあてが意識できているか声を掛ける。</p> <p>○動きのポイントを意識できている児童を全体に称賛する。</p> <p>○動きのポイントを意識できていない児童には、掲示物の忍者の動きを参考にするよう伝える。</p> <p>○安全な着地ができている児童を称賛する。</p> <p>◇飛び箱を使った運動遊びに進んで取り組もうとしている。 【態度①】</p> <p>◇ジャンプして飛び下りることができる。 【知識・技能②】</p>

	<p>6 見つけた動きを紹介する。 ほめほめタイム</p> <p>9 学習の振り返りをする。</p> <p>10 後片付けをする。</p>	<p>○忍者の動きを鍛える修行を見つけた児童を取り上げ、全体に広める。</p> <p>○学び方や友達同士の関わりがよかった児童を紹介、称賛し、学習の意欲をもたせる。</p> <p>○自分の役割のものだけでなく、協力して片付けるよう声を掛ける。</p>
<p>な か 2</p>	<p>5 跳び箱を使った運動遊びを動きに挑戦する。 【場の例】（3時間目）</p> <p>ぴよーん！ふわっと道場</p>  <p>ととととっぴよーん道場</p>  <p>グッ！ぴよーん！道場</p>  <p>（4時間目）</p> <p>グズリッ！グズリッ！ぴよーん道場</p>  <p>ぴよーん！ぴよーん！道場</p> 	<p>○3グループに分かれてローテーションして全部の場を回り、全て経験できるようにする。</p> <p>○様々な高さを組み合わせた跳び箱を用意することで、苦手な児童も取り組みやすくし、達成感を味わえるようにする。</p> <p>○忍者の動きのポイントを見つけたら、あとで発表してもらうことを伝え、活動の中でコツを見つけられるようにする。</p> <p>○場を見ながら、マットや用具がずれているときは直すように声を掛ける。</p> <p>◇助走から片足や両足で踏み切って跳び箱に跳び乗ったり、またぎ乗ったりことができる。 【知識・技能②】</p> <p>◇場や用具の安全に気を付けている。【態度④】</p> <p>◇またいだ姿勢で手を支点に体重を移動させて、またぎ下りたりすることができる。 【知識・技能④】</p> <p>○忍者の動きのポイントを言葉にできない児童は、実演して表現するよう伝える。指で指して伝えられるように、掲示物を活用する。</p> <p>○「どこが」「どのように」よかったのかを言葉にして伝えられるように、手本となる言い方を例示する。</p> <p>○動きのポイントを意識できている児童を全体に称賛する。</p> <p>○動きのポイントを意識できていない児童には、掲示物を参考にしよう伝える。</p>

	<p>6 ほめほめタイム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の二人組を組む。 ・めあてをミニ師匠に伝える。 ・実技をして、ほめほめをもらう。 <p>7 動きのポイントを基に、もう一度遊ぶ。</p> <p>8 学習の振り返りをする。</p> <p>9 後片付けをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ミニ師匠が掲示物を活用して、「どこが」「どのように」よかったのかを言葉にして伝えるよう助言する。 ○学び方や友達同士の関わりがよかった児童を紹介、称賛し、学習の意欲をもたせる。 ○動きが大きくなったり、丁寧になっている児童を見つけ、称賛する。 ○自分の役割のものだけでなく、協力して片付けるよう声を掛ける。
<p>な か 3</p>	<p>5 活動のする修行の場を移動していろいろな場を回って楽しむ。</p> <p>【場の例】(5・6・7時間目)</p> <div data-bbox="319 806 869 1075"> <p>ぴよーん！ふわっと道場</p> </div> <div data-bbox="319 1075 869 1299"> <p>ととととっ！ぴよーん道場</p> </div> <div data-bbox="319 1299 869 1523"> <p>グッ！ぴよーん！道場</p> </div> <div data-bbox="319 1523 869 1747"> <p>グズリッ！グズリッ！ぴよーん道場</p> </div> <div data-bbox="319 1747 869 2060"> <p>ぴよーん！ぴよーん！道場</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○場の回り方を全体で確認する。 ○場の増やしたり、物をつけ足したりするときの約束を確認する。 ○様々な高さを組み合わせた跳び箱を用意することで、苦手な児童も取り組みやすくし、達成感を味わえるようにする。 ○ほめほめタイムに向けて、場を回りながら、めあてが意識できているか声を掛ける。 ○動きのポイントを意識できている児童を全体に称賛する。 ○動きのポイントを意識できていない児童には、掲示物を参考にするよう伝える。 ◇器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫している。 【思・判・表①】 ◇順番やきまりを守り、誰とでも仲よくしようとしている。 【態度②】

	<div data-bbox="320 152 874 488" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>スペシャル道場</p>  </div> <p>6 ほめほめタイム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の二人組を組む。 ・めあてをミニ師匠に伝える。 ・実技をして、ほめほめをもらう。 <p>7 ほめほめタイムで褒めてもらえたことを意識して、もう一度遊ぶ。</p> <p>8 学習の振り返りをする。</p> <p>9 後片付けをする。</p>	<p>○ミニ師匠は、掲示物を活用して、「どこが」「どのように」よかったのかを言葉にして伝えるよう助言する。</p> <p>◇友達のよい動きを見つけ、考えたことを友達に伝えている。 【思・判・表②】</p> <p>○褒めてもらえたことを大きさに表現することを伝える。</p> <p>○学び方や友達同士の関わりがよかった児童を紹介、称賛し、学習の意欲をもたせる。</p> <p>○自分の役割のものだけでなく、協力して片付けるよう声を掛ける。</p>
ま と め	<p>○学習のまとめを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・跳び箱を使った運動遊びの行い方を知るとともに、跳び乗りや跳び下り、手を着いてのまたぎ乗りやまたぎ下りをすることができたか。 ・器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫したり、考えたことを友達に伝えたりすることができたか。 ・跳び箱を使った運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができたか。 	

10 資料等

※別紙参照